



市場のニーズに合わせた生産で 経営規模の拡大をめざす

花き経営 北野町 田中 保光 さん (29歳)

就農そして法人化

専門学校を卒業後、花市場での勤務を経て就農した田中保光さんは、両親とともに約50アールのハウスのハウスで、カサブランカをはじめオリエンタルユリ、ナデシコ、アスター等の花きを生産しています。就農8年目の平成23年6月には、自らが代表となつて経営を法人化し、生産だけでなく、加工、卸、販売、さらには、花を使ったビジネスの企画やコンサルタント業務まで手懸けています。

農業を成熟産業へ

保光さんは、「良いものを作れば売れる。」というような、職人的な考えは持っていません。地域の若い生産農家と情報交換しながら様々な品種を試し、市場に営業を行うなど、農業を商業としてとらえ、常に、流通や顧客ニーズを見据えて取り組んでいます。

花は、野菜と比べて品種が非常に豊富であり、また、品質の差が大きいことが特徴で、夏場の防除作業や量産ができないなど苦労も多いと話す保光さん。一方で、農業は他産業と比べて市場が成熟していない面があり、そこを改良していくことにやりがいを感じています。

生産規模の拡大に向けて

「市場のニーズに合わせた生産をすればロスを無くせる。今後も、売れるものを的確に把握し、生産規模の拡大と経営安定を目指していきたい。」と語る姿から、農業生産者というだけでなく、若き経営者の風格が感じられます。

